

# J-クレジット制度における農業分野の方法論

- J-クレジット制度では、排出削減・吸収に資する対象技術ごとに、適用範囲、排出削減・吸収量の算定方法及びモニタリング方法を規定（これを方法論という）。
- 現在、J-クレジット制度全体で、72の方法論を承認。このうち、農業分野の方法論は6つ（2024年12月現在）。

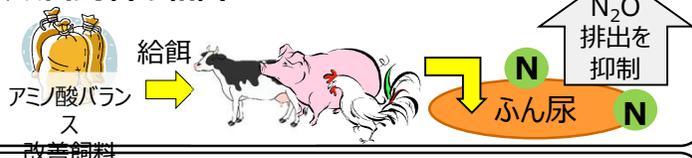
## ■農林漁業者・食品産業事業者等による活用 が想定される主な方法論 2023年11月時点

|                  |                                    |
|------------------|------------------------------------|
| 省エネ              | ボイラーの導入                            |
|                  | ヒートポンプの導入                          |
|                  | 空調設備の導入                            |
|                  | 園芸用施設における炭酸ガス施用システムの導入             |
| 再エネ              | バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替 |
|                  | 太陽光発電設備の導入                         |
| 農業               | 牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌         |
|                  | 家畜排せつ物管理方法の変更                      |
|                  | 茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥  |
|                  | バイオ炭の農地施用                          |
|                  | 水稲栽培における中干し期間の延長                   |
| 肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌 |                                    |
| 森林               | 森林経営活動                             |
|                  | 再造林活動                              |

## ■農業分野の方法論

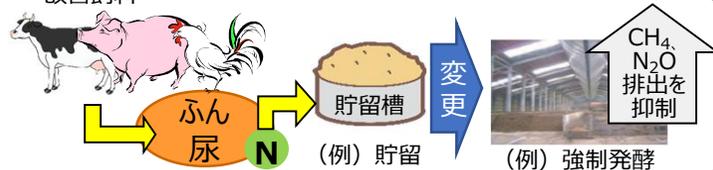
### ・牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌

家畜にアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理からの一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量を抑制



### ・家畜排せつ物管理方法の変更

家畜排せつ物の管理方法を変更することにより、メタン(CH<sub>4</sub>)及びN<sub>2</sub>Oの排出量を抑制



### ・茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥

茶園に施用する窒素肥料を硝化抑制剤入りの化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料に代替することで、土壌からのN<sub>2</sub>O排出量を抑制



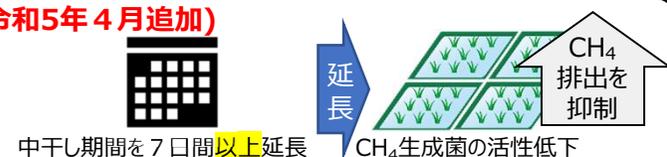
### ・バイオ炭の農地施用

バイオ炭を農地に施用することで炭素を土壌に貯留



### ・水稲栽培における中干し期間の延長 (令和5年4月追加)

水稲の栽培期間中に水田の水を抜いて田面を乾かす「中干し」の実施期間を従来よりも延長することで、土壌からのCH<sub>4</sub>排出量を抑制



### ・肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌 (令和5年11月追加)

肉用牛に、バイパスアミノ酸を加えた飼料を給餌することで成育を促進し、従来より肥育期間が短縮されること等により、枝肉重量あたりのCH<sub>4</sub>及びN<sub>2</sub>Oの排出量を抑制



# 農業分野のJ-クレジットの実績

- J-クレジットのプロジェクト登録件数のうち、農業者が取り組むものは39件。
- 農業分野の方法論に基づく取組によって、これまでに約58,400トン（CO2換算）のクレジットが認証（発行）。

## ■ 農業者が取り組むプロジェクト39件の内訳

※太字はプログラム型プロジェクト、赤字は2024年11月までにクレジットが認証されているプロジェクト

| 分類      | 方法論                             | 件数 | 取組者   |
|---------|---------------------------------|----|---|
| 省エネ     | 空調設備の導入 など                      | 5  | (同)北海道新エネルギー事業組合、 <b>唐津農業協同組合</b> 、 <b>フタバ産業(株)</b> 、 <b>クボタ 大地のいばき</b> 、 <b>九州電力株式会社</b>   |
| 再エネ     | バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料の代替 など | 4  | (株)伊賀の里モクモク手づくりファーム、(株)タカヒコアグリビジネス、(株)デ・リーフデ北上、 <b>イオンアグリ創造(株)</b>  |
| 省エネ・再エネ | 未利用熱の熱源利用 など                    | 1  | (株)エア・ウォーター農園   |
| 農業      | 牛・豚・ブイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌       | 3  | <b>味の素(株)</b> 、(株) <b>Eco-Pork</b> 、 <b>デザミス(株)</b>   |
|         | 家畜排せつ物管理方法の変更                   | 1  | (株)ファームノートデイリープラットフォーム  |
|         | バイオ炭の農地施用                       | 5  | (一社) <b>日本クルベジ協会</b> 、(株) <b>TOWING</b> 、(株)未来創造部、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)フェイス  |
|         | 水稻栽培における中干し期間の延長                | 20 | <b>クボタ 大地のいばき</b> 、 <b>Green Carbon(株)</b> 、 <b>三菱商事(株)</b> 、(株)フェイス、(一社)Co、 <b>NTTコミュニケーションズ(株)</b> 、 <b>クレートウラ(株)</b> 、(株)バイウィル、 <b>伊藤忠食糧(株)</b> 、 <b>阪和興業(株)</b> 、 <b>フィード・ワン(株)</b> 、 <b>神山物産(株)</b> 、(株)Rev0、 <b>田中産業(株)</b> 、(株)鈴生、 <b>日本電計(株)</b> 、 <b>グリーンアース(株)</b> 、 <b>スマート農業共同体</b> 、(株)アルプロン、 <b>新潟市</b> |
| 合計      |                                 | 39 |   |

## ■ 農業分野の方法論に基づく

クレジット認証量（2024年11月現在）

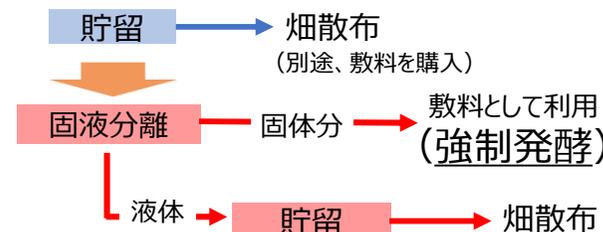
| 方法論              | クレジット認証量（累計） |
|------------------|--------------|
| 省エネ・再エネ          | 42,235t-CO2  |
| 家畜排せつ物管理方法の変更    | 149t-CO2     |
| バイオ炭の農地施用        | 1,033t-CO2   |
| 水稻栽培における中干し期間の延長 | 14,996t-CO2  |
| 合計               | 58,413t-CO2  |

## ■ クレジットが認証された農業分野の取組事例

### 家畜排せつ物管理方法の変更

(株)ファームノートデイリープラットフォーム  
クレジット認証量：149t-CO2

乳牛の排せつ物（固体分）の処理方法を「貯留」から「強制発酵」に変更することで、メタン排出量を削減



### バイオ炭の農地施用

(一社)クルベジ協会      クレジット認証量：984t-CO2

全国の農業者によるバイオ炭の農地施用をとりまとめ、2022年に「バイオ炭の農地施用」に取り組んだ第1号案件としてクレジット認証。

(株) TOWING      クレジット認証量：49t-CO2

地域の未利用バイオマス（もみ殻や畜糞、樹皮など）を炭化したバイオ炭に、独自にスクリーニングした土壌微生物を添加した高機能バイオ炭「宙炭（そらたん）」を活用し、Jクレジットを創出。

大気中のCO2由来の炭素を分解されにくいバイオ炭として農地に貯留

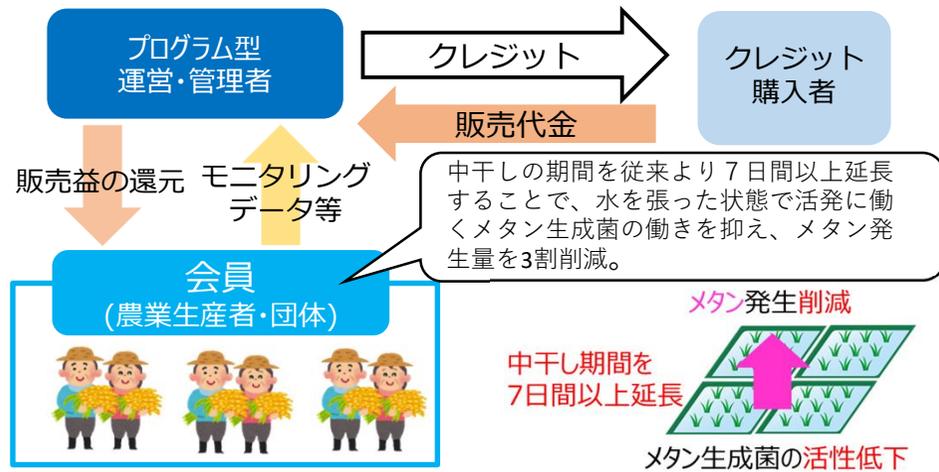


# 「水稻栽培における中干し期間の延長」の取組の広がり

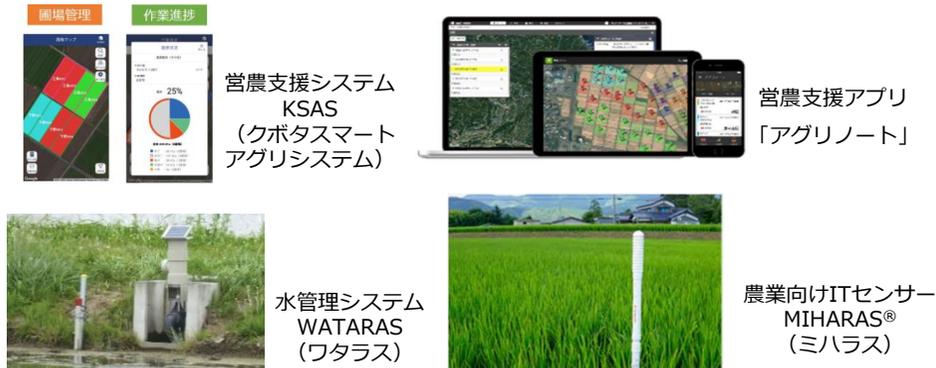
- 水稻栽培における「中干し」の実施期間を従来よりも延長することで、土壌からのメタン発生量を削減。
- 令和5年度には、23道府県の水田（約4,600ha）における取組に基づき、14,996トン（CO2換算）のクレジットが認証（発行）。

## ■「水稻栽培における中干し期間の延長」の取組概要

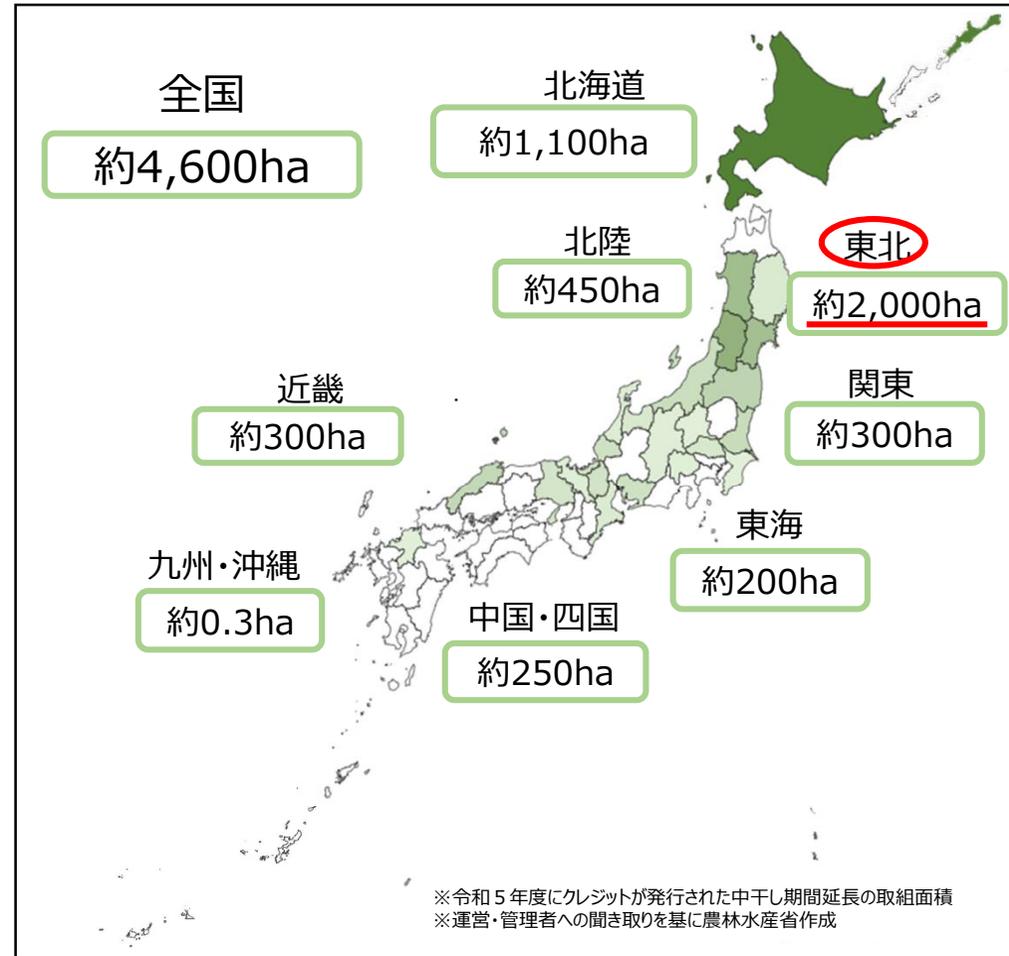
登録されているプロジェクトは、全て、複数の削減活動を取りまとめ、一括でクレジットを発行する「プログラム型」。



## ■利用されるシステム・アプリ（例）



## ■全国を取組状況（面積）



# 農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」

- **みどりの食料システム戦略**に基づき、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めます。
- 化学肥料・化学農薬や化石燃料の使用量、バイオ炭の施用量、水田の水管理などの栽培情報を用い、**定量的に温室効果ガスの排出と吸収を算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすく表示**します。
- 米については、**生物多様性保全**の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示できます。
- 農産物等にラベル表示するための基本的な考え方と、算定・表示の手順を整理したガイドラインを策定し、令和6年3月に「見える化」の本格運用を開始しました。（登録番号付与659件、販売店舗等968か所 令和7年1月末時点）
- 生産者・事業者に対する算定支援や販売資材の提供を引き続き実施するとともに、「見える化」した農産物が優先的に選択されるよう、**各種調達基準への位置づけや消費者の購買意欲を高めるための民間ポイントとの連携**を検討します。

詳しくは  
農林水産省HPへ



## 温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域の標準的栽培方法での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

排出(農薬、肥料、燃料等) - 吸収(バイオ炭等)

★ : 削減貢献率5%以上  
★★ : " 10%以上  
★★★ : " 20%以上



見る × 選べる  
みえるらべる

## 生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

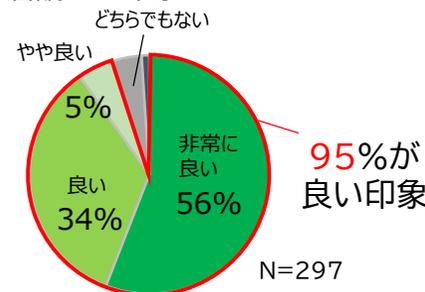
|                         |    |
|-------------------------|----|
| 化学農薬・化学肥料の不使用           | 2点 |
| 化学農薬・化学肥料の低減(5割以上10割未満) | 1点 |
| 冬期湛水                    | 1点 |
| 中干し延期または中止              | 1点 |
| 江の設置等                   | 1点 |
| 魚類の保護                   | 1点 |
| 畦畔管理                    | 1点 |

★ : 取組の得点1点  
★★ : " 2点  
★★★ : " 3点以上

## 消費者へのわかりやすい表示

【令和4年度・令和5年度 実証より】

店舗への印象



取組者からは、

- ・既存の栽培データで簡単に算定ができた
- ・ラベルを付けたことで売上が伸びたとの声。

## 対象品目：23品目

米、トマト(露地・施設)、キュウリ(露地・施設)、なす(露地・施設)、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、ミニトマト(施設)、いちご(施設)、リンゴ、温州みかん(露地・施設)、ぶどう(露地・施設)、日本なし、もも、ばれいしょ、かんしょ、茶

※括弧書きがないものは全て露地のみ

# みえるらべるの広がり

○ 全国各地の小売店等において、みえるらべるを表示した農産物等の販売が広がっている。

## マックスバリュ（北海道、岩手、愛知、沖縄）：スーパー

・北海道の店舗で**玉ねぎ**、岩手県の店舗で**ミニトマト**、**かんしょ**、愛知県の店舗で**なす**、沖縄県の店舗で**きゅうり**を販売。



## ドン・キホーテ（沖縄）：ディスカウントストア

・化学農薬・化学肥料不使用で栽培された**きゅうり**を販売。



## イオン東北（岩手）：スーパー

・化学農薬の使用を最小限に栽培された**ミニトマト**、**かんしょ**を販売。



## エレナ（長崎、佐賀）：スーパー

・意欲ある地域の若手農業者が「見える化」に取り組む。  
・緑肥の投入など環境に配慮して栽培された**キャベツ**、**にんじん**を使用した千切りキャベツ、ミックスサラダを販売。



## グリーンコープ生協（九州、広島、山口）：宅配

・化学肥料不使用で栽培された**白ねぎ**を販売。

## 神明（全国）：米穀卸売

・化学農薬・化学肥料の使用低減や生物多様性保全に取り組む、JAみやぎ登米、JAたじまの**米**を全国のイオン等で販売。



## 道北アークス（北海道）：スーパー

・環境に配慮して栽培した**白ねぎ**、**玉ねぎ**で「見える化」に取り組み、販売。



## イオン北海道（北海道）：スーパー

・北海道内のイオン全店舗において、化学農薬・化学肥料を減らし、緑肥を投入して栽培された**玉ねぎ**を販売。



## マイヤ（岩手、宮城）：スーパー

・化学肥料不使用で栽培された**かんしょ**、**ばれいしょ**、**白ねぎ**、**大根**を販売。



## 秋田県立増田高等学校（秋田）：学校

・生徒が環境に配慮して育てた**米**でGHG削減貢献・生物多様性保全の両方で星3つを取得。  
・校内や地域イベントのほか、令和6年11月に東京・大丸の催事において生徒自らが対面販売。



## さとふる（Webサイト）：ふるさと納税

・令和6年12月より、**米・野菜**等の「見える化」農産物の返礼品を紹介する特集ページを公開。  
・特集ページには、みえるらべるや「見える化」の取組の説明を掲載。



# 東北の「見える化」取組事例

## JAみやぎ登米（宮城県登米市）、株式会社神明



平成15年から環境保全米（宮城県認証特別栽培米）に取り組んでいるJAみやぎ登米の「ひとめぼれ」は、令和5年産米から「温室効果ガス削減」貢献率20パーセント以上の星3つ、「生物多様性保全」の観点から星2つを取得しています。販売者である株式会社神明は、令和6年産の新米の販売に合わせ「みえるらべる」を表示して販売していることを令和6年10月23日に公表しました。この商品は「みえるらべる」が精米の包材自体に表示（印刷）されており、SDGs面からも画期的な取組となっています。

## （有）山藤運輸（宮城県南三陸町）



自社で生産した米（めぐりん米）で「みえるらべる」を取得しています。地元の直売所（道の駅）では、めぐりん米にラベルを貼付して販売しています。

めぐりん米は、町民が分別した生ごみなどから製造される液肥を使って生産しています。

## （有）米道ふたつ（秋田県能代市）



秋田県の特別栽培農産物認証を取得し、減農薬・減化学肥料栽培、長期中干し、ペレット化した米糠を稲刈後のほ場に散布するなど、環境に配慮した栽培により「見える化」に取り組んでいます。自社ブランド米（米道米）を生産して販売するとともに、首都圏のおむすび屋さんで利用されています。

# スマート農業技術を活用して生産性向上に取り組む 農業者等への新たな支援制度がスタートしました！

## スマート農業技術活用促進法※

※農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用の促進に関する法律

 「生産方式革新実施計画」の認定を受けることで  
さまざまなメリット措置が受けられます。

### 計画認定により受けられるメリット措置

➤ **補助事業における優遇措置が受けられます。** 

- 令和6年度補正予算及び令和7年度当初予算において、各種事業で審査にあたっての**ポイント加算**をはじめとする**優先採択等の優遇措置**を設けることを予定

➤ **日本政策金融公庫から長期低利の融資を受けられます。**

- 償還期限を25年以内とする等、**大規模投資にも対応**
- 据置期間を5年以内とし、事業者の**初期償還負担を軽減**
- 貸付金の使途に**長期運転資金も設定**



➤ **設備投資の際、税制上の優遇措置が受けられます。**

- 機械等の取得等をした場合に、**特別償却を適用**
- 特別償却により、**導入当初の税負担を軽減**



管内の認定案件については裏面へ 

生産方式革新実施計画の作成に当たっては、**地方農政局等が伴走支援**しますので、下記までお気軽にご相談下さい。

#### お問合せ先

東北農政局生産部環境・技術課（木村・佐藤・新井）

電話:022-221-6193（8:30～17:30 土日・祝除く）

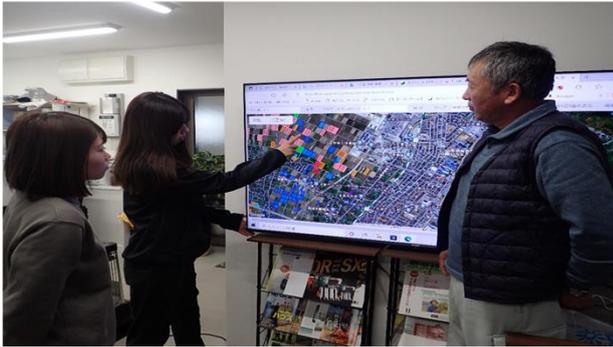
**<認定者> 株式会社おしの農場**  
**山形県\_天童市**

2025年1月15日認定  
 全国第1弾！

**<生産方式革新実施計画の概要>**

水稻・大豆の栽培において、栽培管理システムから得られたデータ（地力・収量等）を他の生産者とシステムサービス事業者とに共有し、生育状況等のデータ分析を行う。

翌年度以降の施肥計画等にデータ分析結果を活用し、ドローンによる可変施肥等で、地カムラを無くし、生産性の向上につなげる。



KSASでは場や作業の進捗状況を把握し、次代の役職員の有益な経営管理の指標として活用



ザルビオ (xarvio) フィールドマネージャーの地力データや生育データを基に可変施肥やドローン散布を実施し、作業の効率化とコストの削減を実現

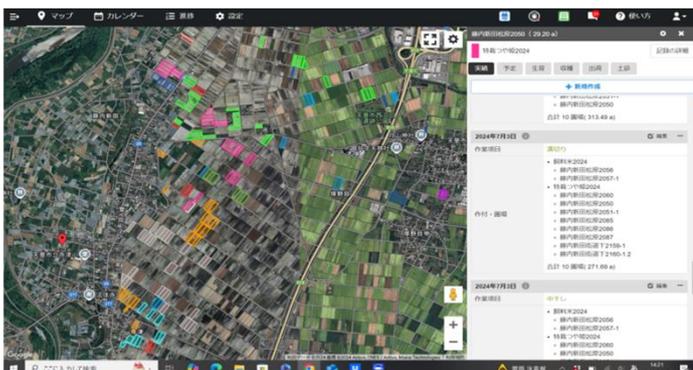
**<認定者> 株式会社山正**  
**山形県\_天童市**

2025年1月15日認定  
 全国第1弾！

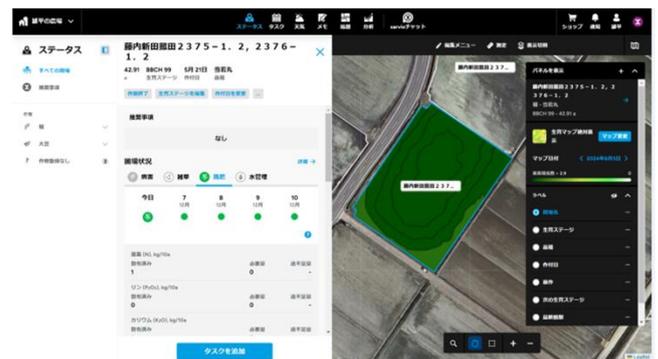
**<生産方式革新実施計画の概要>**

水稻の栽培において、栽培管理システムから得られたデータ（地力・収量等）を他の生産者とシステムサービス事業者とに共有し、生育状況等のデータ分析を行う。

データ分析用の栽培データを集めやすくするため、GPSレベラー等を使用し、区画拡大に取り組んでいく。



アグリノートを用いて営農情報を管理



ザルビオ (xarvio) フィールドマネージャーを可変施肥等で活用